

ひなぎくの森

第4話
文*sawori

「ひなぎくはクリスマスの予定ありますか？」

「へ？」 そういえば、もうすぐクリスマスだった。23歳にもなって不覚。

10代の頃はソワソワと、なんとなく男子との予定を入れなきゃいけないという強迫観念から落ち着かないクリスマス前夜だったなあ。

「僕はヒマですよ。」

「あ、ほんと。私は仕事だと思うよー。結構CDとかDVDとかレコードとかプレゼントで売れるんだ。」

ぼくヒマは、一緒にいたいと同義語が、彼女はわからず、乙女怪しむ

～フランソワ氏の短歌～

※意味：僕はヒマですって＝一緒に過ごさない？ってこと、わかんないなんて、ひなぎくってホントにおんなのこ？

「ま、まあとにかく僕はなんの予定もないですから！行ってきます！ひなぎくも行ってらっしゃい！」

おばあちゃんちから駅までの道は、こうやってフランソワと歩くことが多くなった。フランソワは学校、私は仕事。クリスマスかあ。今年はおばあちゃんだけじゃなくて、フランソワにも何かプレゼントしよっかな、と考えているうちに仕事場到着！「レコードショップevergreen」私が小学生の頃オープンしたこの小さなレコード店は、私のオアシスだった。色々な音楽を店長に教えてもらった。オダギリジョー似の松山店長、実は憧れの人なのです。

「お疲れ様です、店長！え、泣いてる・・・？」

「おー、ひなぼんお疲れ。アマプラで「めぐり逢えたら」見てさー、あれイイよなあ～、メグ・ライアンかわいいよなあ～」

「ああ、メグね。好きですもんね、店長。」

「ひなぼん、口角上がってるとことかがちょっと似てるよなあ～」

「そこだけですもんね、口角だけですもんね。」

「まあまあ」

私は知ってる、店長の離婚した奥さんはメグ・ライアンに似てたってこと。

～つづく～

* ひなぎくの森のカルチャーその4 *

「めぐり逢えたら」とメグ・ライアン



『めぐり逢えたら』

1993年のアメリカ合衆国のロマンティック・コメディ映画。ノーラ・エフロン監督、トム・ハンクス、メグ・ライアン主演。本作は1957年の映画『めぐり逢い』にヒントを得ており、重要なシーンとそのテーマ曲が引用されている。

運命の人と出会えるかどうかって、人生でかなり大きいと思うんです。特に女子は、前世からの運命のような気持ちを味わえる人を探して旅をする生き物です。そんなあなたにジャストミート！メグの元祖ルーズソックスがかわいい。

メグ・ライアン

1961年11月19日 生まれの女優。ラブコメの女王だった彼女も58歳！「ユー・ガット・メール」のメグはヤバかった。大好きな映画のひとつです。



エバグリの松山店長の離婚した妻はショートカットでメグ似だったようです。店長が脱サラしてレコード屋を開いた頃「将来を考えているとは思えない」と言われ離婚したそうなの。

(前回までのあらすじ) レコード店で働くひなぎく(23)の祖母富美江(73)の家にホームステイすることになったフランス人留学生フランソワ(18)は、映画オタクの王子様。音楽好きでもあり、ひなぎくとも仲良くカルチャー交流していきます。今回レコード屋の松山店長が登場！フランソワとひなぎくのクリスマスの行方やいかに！

* sawori *